

本を選ぶ

高校図書館版

NO.33 2002年(平成14年)5月10日

●発行/ライブラリー・アド・サービス
本社 〒162-0822 東京都新宿区下宮比町2-28-517 TEL=03-3235-6168

ぶつく・えんど

あらためて「本」を思う

先日、出版社勤務の青年と話しをする機会があった。入社2か月目で「営業」を担当しているとのこと。そもそも出版社とは、編集者の(組織化した)集団だと思っていた私にとっては、「営業」と言われても反応するものがない。聞けば「本を書店に置くのが「営業」の仕事です。売れるも売れないも、すべては「営業」なんです」と。何とも大変なことなんだろう、とは思ったものの具体的なイメージはまるで浮かんでこない。もう少し聞いてみる。「全国の書店(自分の担当エリアという限定付きとはいえ、文字通りの全書店)を訪問し、その仕入れ担当者と会い、本の注文をもらうことから始まり販売方法までをも交渉します」とのこと。更には「本の注文をとると言っても、いらないと言われることもあるし、だいたい売れるかどうかも判らない訳です。だから、営業マンとしては、よく判らないけど売れるかもしれないなという気にさせるだけの材料を用意します。注文が取れば勝ちですから」と続く。ここまで聞いてやっと判った気になる。出版社といえども所詮は営利企業なのだ…。

何故か判らないが、その日は疲れた。

それから何日か経ったある日、またも出版社の営業という人に会った。今度は年輩の男性であ

る。同業界同職種の人に連続して会うのは珍しい。私には、前述の青年との会話が印象深いものとして残っていたが、今回はどうも様子が違う。

「近頃は売れるとか売れないということ以前に、売るということが判らなくなってきました」と言う。それは、業界全体の成長がマイナスということに加え、以前(と言っても、ほんの数年前)なら通用した方法がまるで効力を持たなくなった、ということらしい。「すべての物がユニクロ化した今の時代に本は高いものになってしまいました。しかし、本は物であると同時に物ではないのです。そこには著者の思考、思想、生活そして人生があります。それらすべては、体系化された技術と様式と知識に裏打ちされています。これは文芸書、児童書、芸術書、学術書などすべてに言えます。つまり文化なのです。これを世に広める＝読者を獲得する＝売ることが、出版社の営業だと思っていましたが、最近…」と続く。

このところ書店に行っても面白そうな本が見えてこない。それでも書店に行く。時間のある日はなるべく隅の方まで見る。すると見えてくる。あるじゃないか、面白そうな本が。少し嬉しくなる、と同時にこれでは探せと言う方が無茶だという並べ方への不満も出る。すべてが、あの青年営業マンのような売り方になってしまったのか。

年輩の営業マンが別れ際に言った。「文学、芸術、学問」という言葉を辞書で引いてみて下さい。その集大成が本です。もっと敬意を表してもいいと思うのですが」と。

辞書を引いてみた。私もそう思う。

(村中 柁太)

高校時代は、広く耕してあげたい

—府立高校で美術を教えている大槻博路さんの場合—

大槻博路さんは、京都で府立高校の非常勤講師をしています。今までに、五つの学校を経験していますが、現在は三つの府立高校の非常勤講師をしています。画家である大槻さんが教えているのは、美術です。

三つの高校は、1校が普通高校で、1校は普通高校の分校、1校は工業高校です。それぞれ小規模校といわれている学校です。

そのうち、工業高校での授業の進め方が、大槻さんの授業の基本形ともいえます。

というのも、工業高校では、芸術教科は、一年生のときに2単位あるだけ、しかも無条件で美術専攻。美術が嫌いな子も、苦手だと感じている子も、1年間にずっと50時間は美術の授業を受けなくてはならないからです。美術は大嫌い、音楽が大好きな子どもたちも大勢いる、この子たちに体験してもらいたいことは何か、伝えられるものは何か、それを自分に問うことから、授業の組み立てが始まります。

大槻先生の授業のやり方

一番初めに授業するときは一時間しゃべりまくりますよ。美術の歴史や学校教育の問題や云々かんぬん。そしたら、その通りや、ほくは美術は大嫌いやという子どもの声で授業がはじまるわけです。

中学校では沢山のことをしてきてる。例えば、1学期間に写生もしましょう。デザインの分野ではレコードジャケット作りましょう。彫刻も、版画もしましょうとわずかの単位の中で、沢山のことを学んできた。これは大事だけど、その中で子どもたちが満足にやり切ったと言う実感を持って来てる。期限がきて、未完成のまま提出する。あるいは、未提出になる。当然成績として1、2、3がつくわけ。そのことによって、ほくは絵はあかんのやとなる。これがひとつの傾向です。私はカリキュラムという形で学校には提出しますが、実際は一学期間にひとつの課題に取り組みます。十日間の20時間ぐらいの時間で、ひとつ

のことをやるやないかと。すると、しっかりと自分で構想を持って考えてやりあげます。そのやりあげた自分の満足感と生まれてくる形を確認させます。そのことが一番大事なんですよと、徹底してるわけです。そしたら今まで次々と課題が与えられ、時間がなくて、燃焼しきれないままにやり過ごしてきたのに比べて非常に充実感と達成感をもてるようになります。この経験を体験をさせることが一番大事なんじゃないかと。

大体各学期で、版画、切り絵、ちぎり絵をさせるんですよ。切り絵をさせるときには、外へ出て野に咲く花をスケッチしましょう。そこで描写をするという、ものを観察して描写する訓練する。それを持って帰ってきて構成する。写すのではなくて活かして一つの大きさに構成します。これはデザインの要素です。それを白黒で表現し、そのとき毛筆をつかうんです。面相筆を使って墨汁で白黒をつけます。書道の要素もありますね。それを黒い紙にくっつける。どんなのりを使うのか、それからカッターで切り取ります。それを台紙に貼ります。うまく線が引けないとか描けないと言う子どもたちが、カッターならスキツとした線を切れるんです。しかも白い台紙に真っ黒いもの貼り付けると非常に鮮やかなんです。出来上がりが自分の想像以上にいいものができる。そこにひとつの確信が、喜びが生まれるでしょう。

できたのはひとつんだけどいいものができる。いろんなことを作業のなかで体験、勉強できる。最後にはレポートを書かす。切り絵制作を終えて自分で感じたことをざら半紙に書かせる。原稿用紙だと句読点や漢字などで思いつきの自由な発想が書きにくい。ざら半紙だったら、落書き程度でしょう。だんだん書けるようになってそこにその子の本質がある。それを読む。日常的な授業態度も観察してるんだけど、制作した作品とレポートを読むとその子の状態も鮮明になってくる。というふうに学期にひとつの課題をすると彼らも心が楽になる。

出席とらないし、作品は自己管理です。明日は美術だと思ったら、前の日から準備します。今までやってきたことが浮かんできて、ああしようこうしようと、頭の中で想像で描きます。その思いで学校に来て授業にのぞむ、人さまざまだけど、少なくとも教室から美術室に来る間には美術を受けるんだという気持ちで入ってくる、その時に出席とって規律礼して…そしたら思いはいったん中断してしまうわけ。やりにくくなる。エンジンかけなおして想像力働かさないといけない。だから出席とりませんと。作品は自己管理させます。美術室に来たら勝手に取り出してやってくださいと。5分前になったらきちんと片付けて帰っていいですよ。そんなら出席は？というからそんなの見たらわかるわいと。そのかわりよその授業はちゃんとせいと。私は、絵を描くとき、やろうという気持ちを高めて制作に入れるんや、そやから、君たちにも強制しないと云うんです。ひとつの演出なんですけど。

ほめるときは、「ええやんか」と大げさにほめるけど、先へ繋がるような、食いついてくるようなほめ方せなあかん。「おまえのタッチ。ピカソもこんなタッチの絵があるで」「それなんや」「知らんのか、教科書にもあるし、いっぺん図書館行ってこいよ。ついでにピカソの青年時代のこと書いたある本さがしてもらってこい。ピカソがこの作品作ったときの状況って、お前の思いとかなり一致するところあるやん」「ふーん」となる。情報提供したり、自分とのかかわりをきちっと話してあげると気がつくことになるかな。

見る過程、調べる過程、自分の中で燃焼させる過程、ゆっくり形に仕上げる過程。それぞれの過程で、情報を提供していく、図書館に行ってこい、新聞見たか、俺はこうやったと自分のことも正面から話す。そこに可能性が生まれる。一

大江町の町づくりにも

大槻さんは、生まれ故郷の大江町にUターンで帰ってきました。十数年経った今、大槻さんは、大江町の町おこしに、なくてはならない人です。実現したアイディアは、ホテル祭りなどは序の口

で、その数数十、全て黒字決済。そのお金で不燃物置き場として素敵な木造の小屋をたて、外壁には一流の絵を飾ったり、お不動さんの修理をして、ついでにお不動さんのお祭りも始めたり、一年中花がさいている町にするために、府道や川沿い、各戸の庭に、好きな花木を植えるとか…。

美術の非常勤講師は15年ほど前からで、出身高校からの依頼だったことが、断り切れない理由だったようです。

いずれバトンタッチして自由になりたいと思いつつも、小学生や、幼児から七十数才までの絵画教室で出会う人々の、美術にかかわる環境や高校生の状況を見てみると、「知らんで済まされんな」というのがご自分の中での葛藤だそうです。半分いやいやながら避けて通れない人間の生き方として高校生のお手伝いをさせていただいているというのが、正直な気持ちだそうです。

大槻さんは、今の府立高校のあり方にも、若者にとって気の毒な面があると思っています。例えば、工業高校のコースもいくつにも分かれていて、そこを中学の三年生の時点で決めなくてはならないので、子どもは、これが自分の人生にとって間違いのない選択だったのかと疑問を感じるし、当然挫折も来る。仮にすんなりいったにしても非常に線の細い貧弱な子どもたちが生まれてくる。その子たちが社会に出たり仕事についたにしてもそこから生まれてくる技術やものは、人類社会にとってほんとうに必要なのかという不安をどうしても抱いてしまう。同じような子どもを、広域から一つの高等学校に集める今の輪切りの進学状況の中では、以前と違って学校が社会として機能していないというか、学校の中で、学べるものが、薄くなっている。それを補うもののひとつに、図書館があって、図書館の役割や図書館への期待もこれから一層大きくなると感じているそうです。

(おおつき ひろみち：京都府立工業高校 京都府立大江高校 京都府立福知山高校三和分校 美術講師) (2002.4.30 LAS探検隊)

実務マニュアルをつくる

—異動で確かめた17年の実績—

スタッフマニュアルをつくろう(9)

木下 通子

またまた新緑の季節がやってきました！2002年ワールドカップイヤーの春です！そして、私はとうとう転勤しました！育児休業をとっていたので、岩槻商業には2001年の10月20日に復帰して、5か月あまり残務処理をして、転勤という形でした。17年もの長い間勤務していたので、もっと感慨があるかなと思っていたのですが、1年ちよつとのブランクで生徒のことがほとんどわからず、別れの辛さを味わわずにすみました。

新しく着任した学校は、埼玉県内でも有名な生徒指導の厳しい進学校です。新設26年目の若い学校なのですが、県の研究指定校などバンバン受けている上に、総合学習や課題研究などにも十年以上も前から取り組んでいて、先生方は息つく間もなく働いています。みんなとっても働き者です。今までいた商業高校と比べると、まるで私立の学校に転勤したような気分です。

大人の間人関係はフクザツなことも多いのですが、生徒との関係はずいぶん慣れてきました。新着図書案内を定期的に出し始め、リクエストを受けることを大々的に紹介したら、あれよあれよという間に貸出が伸びています。富士見ファンタジア文庫や、角川スニーカー文庫など、高校生が読む文庫本がほとんど入っていなかったのも関係あるのですが、多岐にわたるジャンルのリクエストが降ってきて、その処理に追われています。

さて、今回は岩槻商業高校でのまとめとして、最後の5か月で何をやったかを書いていきます。

何がなんでも転勤があるぞと思っていたので、育児休業から復帰して最後の5か月で何をしようか悩みました。12月までは自分のリハビリもかねて、日常業務をこなすことに専念し、片づけなどの作業は、残りの3か月で行うことにしました。そういう意味では育児休業でいったん仕事をまとめていたのも役に立ったし、私の産休代替をしてくれた石川裕美さんがとてもいい人で、私と

の波長もあつたので引継も楽でした。

まず、今年は蔵書点検をするのをやめて、本の廃棄することにしました。新しい方がきて、本棚がぐちゃぐちゃだと気分が悪いだろうと思ったし、パソコンで検索できても書架で直接資料をあたる時に、少しでも見やすくしておきたかったからです。12月には開架の本棚がぎゅうぎゅうでした。そこで、まず、書庫の本を選んで捨てることにしました。「資料収集方針」を決めていたので、それに基づいて作業しました。ちなみに、除籍についての文言は下記のとおりです。

—蔵書の更新・除籍について

本校図書館の資料は利用されることに意義がある。常に時代や文化の変化に対処できる新鮮な書架であるために、次のような原則で除籍および廃棄を行う。

(1) 利用頻度の落ちた図書、新たな資料によって代替できる資料、古くなった資料価値の乏しい資料は、随時書庫に移す。

(2) 資料全体をみきわめ、将来の利用を予測して不要な資料は除籍する。—

まず、開架書架の本を書庫に移し、しばらく様子を見るのが原則だったので、司書のカンでほとんど利用されていないと思われる書庫の本を2000冊ほど抜きました。それを図書館の入り口に並べ、閲覧期間を設けて、先生方にもみてもらいました。もし、先生方から希望が出たら、廃棄するのはやめようと思ったのですが、そういう先生は現れませんでした。除籍もパソコンのできるので簡単でした。ピツ、ピツと、バーコードを読み込んで、除籍する本のデータを一まとめにしておき、最後に一括で除籍処理をしたので、作業はあっという間でした。書庫の本棚から本を抜いて並べたりの作業には、家庭研修に入った三年生に声をかけました。終日作業をしていましたが、開架書庫の本の所蔵をパソコン上で「書庫」になおして、書庫にしまうという作業とあわせて、一

週間ほどで終わりました。

およそ2000冊の本を書庫へ移し、開架書架がスケスケになったので、今度は開架書架の本の移動です。この時点では配架もぐちゃぐちゃだったので、最後にピシッと本を並べて出ていこうと思ったのです。いつもなら生徒に手伝ってもらうこの作業は自分一人でおこないました。他の用事が入ってきたり、疲れて休んだり、3週間くらいかかってしまいましたが、書架に並んでいる本はほとんど自分が選んで購入した本だったので、あの授業の時に使ったとか、〇〇ちゃんが好きだったとか、この作家流行ったとか、思わずしみじみと、でも力強く作業を進めました。本棚から本をだして、本棚を雑巾で拭いて本をしまう。毎年、2回はこの作業をやっていたのです。最後には、1年間くらいだったら、本の移動をしなくても新しい本が配架できるくらいのスペースをそれぞれの分類番号のところに作ることができました。

終業式くらいまでは、肉体労働をしていました。転勤先もはつきりせずに、気持ちも落ち着かなかったので、体を動かしていた方が気が楽だったのもあります。転勤先が決まったら、新しい学校のことを考えて、新しい学校用に必要な資料を作ったり、使い慣れているパソコンでできることはしていった方がいいよと、友だちには言われていました。でも、いざ内示の日に自分の転勤先を聞いて（これも予想してなかった場所だったので驚いたのですが）、後任の方が1年間の臨時採用の方だというので、あわてて「実務マニュアル」を作り始めました。

二度めの産休に入るとき、パソコンに関して、1日の流れがわかるようなマニュアルは作っていたのですが、細かい実務マニュアルは作っていませんでした。ぜひ作りたいと思ったのです。スタッフマニュアルを作るということを考えたときから、K高校の司書さんが作った「実務マニュアル」に魅力を感じていました。でも、それがかなり内容的に細かいものだったので、それを厳選して項目を起こしたような形のものを作りました。

私が「実務マニュアル」に書き起こした項目は、次の項目です。印刷・受け入れ・エアコン・オリエンテーション・会計処理・貸出制限・カタログ・寄贈資料・継続購入図書・決算・検品・校

内関連事項・校内資料・コピーサービス・コミック・雑誌・事業報告・収集方針・出張文書の保管・消耗品の購入・除籍・廃棄・新着図書・新聞・清掃・請求記号・蔵書点検・統計・取引業者一覧・督促状・図書館ニュース・図書部会・ネットワーク・年鑑活動計画・予算・リクエスト制度・レファレンス。

「実務マニュアル」には資料として、「図書館空調設備使用規定」（1994.6）「資料収集方針」「資料選定方法」（1996.3）を添付しました。この規定は職員会議で承認されているものなので、担当者がかわっても生きていくものだからです。「実務マニュアル」を作っていて、「資料収集方針」を作っていて良かったと思いました。マニュアルを書いて、「収集方針」に立ち返ることが多いのです。除籍・廃棄、リクエスト制度など、図書館の根幹である本の購入に関わることは「収集方針」に順じておこなうことが多く、引継の際にも迷ったら「収集方針」を参照してくださいとお願いしてきました。

肉体労働&頭脳労働をしているうちに、3月はあっという間に終わりました。最後に貸出統計などの年間活動報告を作って、岩槻商業高校での仕事を終わりにしました。

司書教諭の発令間近で、司書の専門性が問われている今、転勤してこれが司書の専門性だ!!と改めて感じたのは、資料を知っているということでした。春日部東高校は、新しい学校のわりに古い本が多く、かつ近年は個人全集の収集などに力を入れていたようで、私が前任校で買っていた本と傾向が違う本が多いのです。でも、私の中に本の知識は入っているので、生徒からレファレンスを受けたときには、「こんな本があるんだけど。今、この図書館には無いけど、すぐには買えないけど」と、リクエストに結びつけることができるのです。インターネットも使える学校なので、検索もスイスイです。すっごく急いでいる時には、岩槻商業から貸してもらったり、近隣の高校や市立図書館に借りに行き対応しています。この学校には、司書になりたいと思っている生徒も多いらしく、しっかりサービスして、司書の仕事をみせていきたいと思っています。

（きのした みちこ：埼玉県立春日部北高校司書）

自己流もまかり通る五年目

—レイアウトを変更しました—

宮崎健太郎

司書として現勤務校に着任してから5回目の春を迎えました。

毎年この桜の季節に1年間を振り返ったとき、あれこれ仕事を列挙できたのは最初のころだけ。最近ではリストアップする鉛筆が動きません。

学校図書館の右も左もわからない状態で一人仕事を任されてしまった初任者のころ。前任者が残したマニュアルを首っ引きではじめた仕事。どんな些細なことでも仕事リストに入っていた当時と比べ、今となっては基本的な仕事は一人でできなければ困ります。段取りを立てて仕事ができるようになってきているし、オリエンテーションのような季節ものの仕事も読めるようになってきているし、職場内の人間関係もそれなりにできているし…。

5年目ともなると、図書館に関するさまざまな仕事の進め方も校内では自己流が普通にまかり通り、職場での話も仲のいい同僚とそうでない人との差がはっきりしてきます。そうなれば、どこか直さなければならぬ点があったとしても気づかないまま仕事をしている可能性は高いのではないかな。ある先輩司書からこんな戒めの言葉をいただきました。そういわれると、いまの自分の仕事には問題点が多そうです。昨年ここで書いた散らかった司書室が最終的に片付いたのは今年の春だったわけですし……。さて、そんな1年間のなか、唯一これは、といえる仕事にレイアウトの変更があります。

昨年の夏休み中、PCB対策としてすべての照明器具を付け替える工事がありました。図書館も例外ではなく、照明器具をすべて交換しました。暗い、ということで蛍光灯も増設してもらったはずなのに、結果は、書架と書架の間が基準を下回っているというものでした。

無理ありません。3スパン、1.5教室の広さに廊下分を足しただけの県下狭い閲覧室に書庫のない館内。収容力を確保するため、閲覧室には2.2メートルの高書架が6列、わずか75cmの通

路を隔ててズラツと並んでいるのです。そんな状況に加え、前々からレイアウトの変更をしたいと思っていたことも手伝い、夏休み中、思い切って大規模なレイアウトの変更を行いました。

狭い館内、照明器具の位置との兼ね合い、授業利用に最低限必要な机と席の確保など、まるでパズルのような作業。きちんと図面を作って計算したつむりのレイアウトも実際に移動してみるとぜんぜん明るくない、広くない、など思うようにはいきません。

結局、試行錯誤の末出来上がったレイアウトはとて変則的な配置になってしまいました。机に向かえる座席数は欠員分でかろうじてクラスの人数を満たす36席。書架の場所を説明しにくいなど数々の問題点を抱えています。それでも、どの書架間も通常1.2m、最低でも1.1mは確保でき、照度上も問題がないレイアウト。入り口もいままでの倍に広がりました。

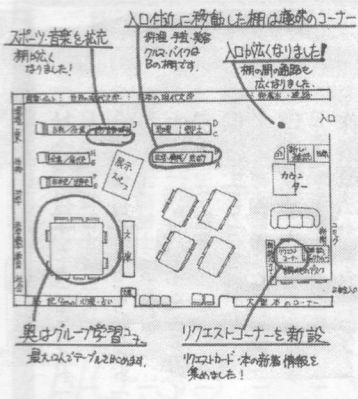
このレイアウトの変更では、館内の奥に行くのに書架の間を通るよう、あえて入り口近くに書架を置きました。動線上には、今まで奥に隠れていたスポーツや音楽、食品や自動車工業などの資料を、あえてNDC順を破って別置したり（ライフのコーナーと名づけました）、音楽やスポーツの資料を並べたりしてみました。

当初は批判もありましたが、結果は上々！

これまでは奥に書架が並んでいたということもあり、狭い館内だということになかなか書架の間まで生徒が入っていきませんでした。動く資料は壁に面していて遠くからも背表紙を眺められる文庫本と文学の単行本ばかりでした。

それが、新しいレイアウトになってからというもの、書架間が広がったため着席利用が目に見えて減り、書架間で資料を手にする利用者が増えました。ライフのコーナーに置いた資料をはじめ、動線上の資料は徐々に貸出が伸びています。さらに、最初から今の書架配置しか知らない今年の新入生は、今までの新入生より幅広いジャンルの資料をガンガン借りてくれています。

もつとも、副作用もありました。これまでの動線については省みられなかったのです。そのため、壁書架に並んでいるため狭い通路に入らなくても手に取れた文学の単行本の貸出は目に見えて



落ちました。書架間に利用者が流れるようになれば利用者は資料に手を伸ばし、流れなくなれば手も伸びなくなるんだなあ、ということ、身をもつ

て実感することとなりました。さて、ようやく新しいレイアウトが定着してきたと思いきや、今度は校舎の耐震補強工事の計画

が舞い込んできました。今年の夏休み中いっぱい工事が行われるため、その間、閲覧室・司書室内は完全に空にしなければならない、とのこと。書架などの大型備品は業者が、そのほかの資料などはこちらで、すべて隣の校舎に移動です。

もっと早くわかっていれば、それに合わせてレイアウトの変更もできたのに……と嘆きつつも、夏休み中に、もっと使いやすいレイアウトにすればいいのかな、と開き直っています。

こういう大きな仕事にはばかり目が向いてしまうから、日常の仕事がきちんとできずにいるのかもしれない。

(みやざきけんたろう；埼玉県立小鹿野高校司書)

DMかたろく

『刀水』No.6

■鼎談■

「雑誌『兵隊』をめぐるって」

石田一郎・大濱徹也・鈴木正夫

太平洋戦争中、広東で発行された兵隊の投稿雑誌『兵隊』（火野葦平他が編集）について、60年前の編集担当者に歴史家と中国文学研究者が聞く。



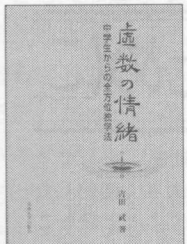
- 敵国日本 太平洋戦争時、アメリカは日本をどう見たか？ M・バイアス／内山秀夫他訳 四六・215P・2000円
- 日本人と戦争 歴史としての戦争体験 大濱徹也著 四六・280P・2400円
- 戦争の世界史 技術と軍隊と社会 W・H・マクニール／高橋均訳 A5・570P・7500円

東京都千代田区西神田2-4-1 刀水書房
Tel:03-3261-6190 Fax:3261-2234

だれでもアーティスト
高校生のためのアートブック・セレクション
在中

こんな本を待っていた！ ★日刊工芸新聞第16回「技術・科学図書文化賞」受賞！！

一中学生からの全方位独学法—
虚数の情緒



吉田 武（よしだ・たけし）著
工学博士（数理工学専攻）

この本は人類文化の全体的把握を目指した科目分類に拘らない「独習書」である。歴史、文化、科学など多くの分野が、虚数を軸に悠然たる筆致で書かれている。また人生の「参考書」ともなるよう、様々な分野の天才達を縦横に配した。漢字、電卓の積極活用なども他に例の無い独特のものである。

A5判・上製本・1032頁／定価（本体4300円＋税）
ISBN 4-486-01485-5 C3041 分野／自然科学（数学）

東海大学出版会

〒151-0063 東京都渋谷区宮ヶ谷2-28-4
TEL:03-5478-0891 FAX:03-5478-0870

URL <http://www.press.tokai.ac.jp/> E-mail:webmaster@press.tokai.ac.jp

図書館必備！

6月刊行開始
◆毎月初旬に1冊ずつ
巻数順刊行
第一線の編者と気鋭の執筆者が、高度な内容を平易に叙述し、日本史研究の到達点を示す。最高水準の「日本の歴史」決定版。

●倭国誕生（第一回配本）
刊行記念特別価格 21800円（14年9月末まで）
日本人はどこから来て、倭国はいつに誕生したのか。A5版



税別価格
東京都文京区本郷一丁目二丁目一
電話 〇三三三八二一三一九一五五
吉川弘文館

日本の時代史 全30巻

いま、21世紀の新しい「日本史」が誕生する！

◆企画編集委員 石上英一・井上勲
◆五味文彦・高禁利彦・渡辺治
各三二〇〇円 「内容見本」送呈

不思議おもしろ幾何学事典
宮崎典二ほか3名訳 本体4900円(税別)

社会医学事典
高野健人ほか7名編 本体13000円(税別)

キーワード気象の事典
新田尚ほか4名編 本体17000円(税別)

アジア・オセアニア I・II
世界地理大百科事典 本体各28500円(税別)

フランス
図説世界文化地理大百科 本体28000円(税別)

総合図書目録'02 II あります。ご請求下さい。

朝倉書店 東京都新宿区新小川町6-29
〒162-8707 ☎03-3260-7631

なりたい資格、したい仕事のすべてがわかる
まるごとガイドシリーズ A5/美装/平均148頁

- ① 社会福祉士まるごとガイド「改訂版」 日本社会福祉士会監修 二二〇〇円
- ② 介護福祉士まるごとガイド「改訂版」 日本介護福祉士会監修 二二〇〇円
- ③ ホームヘルパーまるごとガイド 井上千津子監修 二二〇〇円
- ④ 保育士まるごとガイド 全国保育士養成協議会監修 二二〇〇円
- ⑤ 理学療法士まるごとガイド 日本理学療法士協会監修 一五〇〇円
- ⑥ 作業療法士まるごとガイド 日本作業療法士協会監修 一五〇〇円
- ⑦ 看護婦・士まるごとガイド 日本看護協会監修 一五〇〇円
- ⑧ ケアマネジャー(介護支援専門員)まるごとガイド 日本介護支援協会監修 一五〇〇円
- ⑨ ボランティアまるごとガイド 安藤雄太監修 一五〇〇円

ミネルヴァ書房 京都市山科区日ノ岡塚谷町1
TEL075-581-0296 ※価格は税別

限りなく広がる知識の世界 辞典600点突破!



現代文学鑑賞辞典
栗坪良樹編 本書は、坪内逍遙、二葉亭四迷などの明治の作家から藤沢周・阿部和重をはじめとする現代作家まで348名の代表的な名作390を収録。各作品のあらすじと読みどころなどを解説。 本体2900円



プロ野球 全外国人助っ人大事典
松下茂典編著 ハリスから現役のローズまで20世紀から今日までの助っ人外国人600余名のデータと全業績を紹介する。 本体2300円

東京堂出版 〒101-0054 東京都千代田区神田錦町3-7
2002年度版図書館用基本辞典目録進呈

朝鮮半島の歴史がマンガでわかる!

マンガ **韓国史** 全3巻
ものがたり

徐永洙(ソ・ヨンス)・漫画/野崎充彦・監訳
A5判・上製カバー・本体各1500円(分売可)

神話・伝説・民話などをまじえながら、朝鮮半島の歴史を漫画で詳しく紹介。古代から現代まで、楽しく学べる。日韓対照年表・人名索引付。



- ★各巻内容
- 第1巻 檀君神話から統一新羅まで
 - 第2巻 高麗時代から朝鮮王朝の成立まで
 - 第3巻 植民地時代から現代まで

ISBN4-336-04331-0 ① / 04332-9 ② / 04333-7 ③

国書刊行会 〒174-0056 板橋区志村1-13-15 (税別価)
☎03-5970-7421 FAX 03-5970-7427

筑摩書房 東京都台東区蔵前2-5-3
TEL 03-5687-2680

2002年度版各種目録をお届けします

尾崎放哉全集 (全3巻)
セット定価 (本体価格19,600円+税) ISBN4-480-70430-2

金子兜太集 (全4巻)
セット定価 (本体価格25,000円+税) ISBN4-480-70540-6

マキアヴェッリ全集 (全6巻・別巻1)
セット定価 (本体価格40,000円+税) ISBN4-480-79010-1

刊行開始

牧野信一全集 (全6巻) 第一回配本第2巻 本体価格6,800円

秋元松代全集 (全5巻) 第一回配本第1巻 本体価格7,200円

本はどこからきてどこへゆくのだろう?
書物史のために

宮下志朗 12~13世紀、19世紀、そしてインターネットの現代…書物が大きく変化した三つの時代を舞台に、本を書くことと読むことの歴史を捉えなおす。 2310円(税込)

晶文社 〒101-0021 東京都千代田区外神田2-1-12
電話03(3255)4501
http://www.shobunsha.co.jp/